

第4次長期計画後半期4年目となる2008年度は、これまでの研究の実績と経過の反省を踏まえつつ、更なる研究実績の向上や研究環境の改善に取り組んだ。また、研究支援体制の強化を図りつつ、ポスト第4次長期計画を視野に入れながら研究高度化推進事業や学内研究助成制度をはじめとした研究関連事業を継続実施した。

特にポスト第4次長期計画を見据えた研究政策立案に向けては、これまで策定してきた研究計画を引き続き推進し、政府の第三次科学技術基本計画や研究を取り巻く諸情勢を視野に入れながら、21世紀に龍谷大学が世界に通用する先進的で卓越した研究教育機関として広く認知され持続的な研究体制の構築を目指して「研究支援に関する取り組み」、「研究高度化推進事業の展開」、「学外資金による研究の推進」、「各研究所の取り組み」を柱として事業を展開した。

#### 1) 研究支援に関する取り組み

##### ◆研究支援スタッフの充実

2008年度は間接経費の配分比率見直しを行い、研究支援体制の充実に向け取り組んだ。その結果、間接経費による人材雇用を行うことにより研究支援スタッフの充実、研究支援体制の強化を図った。

##### ◆新しい個人研究費制度の実施

2008年度から図書、物品購入について非課税、課税の選択を可能とした新たな個人研究費制度を実施し、研究費の有効利用と利便性の向上を図った。

##### ◆研究員制度の見直し

2007年度から導入した新研究員制度に係る検証を実施した。研究企画委員会、全学研究運営会議で審議の結果、新制度において導入された総数管理によるフレキシブルな運営及び全学的視野による研究推進のための全学枠の新設等は、概ねその目的を果たし一定の成果を得たとの結論に至った。今後は、全学的な研究員制度としてさらに円滑な運用を図るため、新制度導入の趣旨を踏襲しつつ、適宜必要な改善を図っていく。

##### ◆研究環境の改善

研究環境の向上に関して全学研究運営会議を通じて各学部教授会にて意見聴取を行い、それらを踏まえて、研究企画委員会にて検討を実施した。最も重要な課題として、教育研究に係る時間確保があげられたが、2008年度は具体的な改善策を策定するには至らなかった。研究時間の確保については焦眉な課題として研究環境の向上に向け引き続き検討を行っていく。

#### 2) 研究高度化推進事業の展開

##### ◆私立大学戦略的研究基盤形成支援事業の実施

5年間の文部科学省学術研究高度化推進事業終了後「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター」が、2008年度から同事業の後継事業として新たに設けられた文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業に申請を行った結果、採択され3カ年の研究活動を開始した。これにより、2008年度は文部科学省私立大学学術研究高度化推進事業として7件及び戦略的研究基盤形成支援事業として1件の合計8研究センターによる研究プロジェクトを推進していくこととなった。また、2008年度をもって「古典籍デジタルアーカイブ研究センター」「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センター」が最終年度を迎え、2009年度の申請事業について学内募集を行ったところ、3件の学内応募があった。その中から、新規研究プロジェクトとして「新技術開発による文化財保存・修復科学研究」（代表：岡田至弘教授）及び「里山の現代的利用に関する総合研究」（代表：宮浦富保教授）2件について3ヶ年の大学の特色を活かした研究として、戦略的研究基盤形成

支援事業に申請した。

#### ◆進行中の高度化推進事業

文部科学省学術研究高度化推進事業として、「里山学・地域共生学オープン・リサーチ・センターORC(2004年度採択)」「アフラシア平和開発研究センターAFC(2005年度採択)」、「情報通信システム研究センターHRC(2006年度採択)」「革新的材料・プロセス研究センターHRC(2006年度採択)」、「古典籍デジタルアーカイブ研究センターAFC(2006年度継続採択)」、「人間・科学・宗教オープン・リサーチ・センター(2007継続採択)」「矯正・保護研究センターAFC(2007年継続採択)」及び私立大学戦略的研究基盤形成支援事業として、「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター(2008年度採択)」の8研究プロジェクトを推進した。

#### ◆大学間共同利用法人人間文化研究機構、地域研究推進事業

大学間共同利用法人人間文化研究機構、地域研究推進事業として2010年度から実施予定の「現代インド地域研究拠点」について、本学が私学では唯一、拠点の一つとして内定された。2009年度以降、拠点形成に係る研究活動を本学の高度化推進事業に位置づけ新たな研究展開を図ることとなった。

#### ◆アフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査研究プロジェクト

大学の独自研究プロジェクトとして進めているアフガニスタン新発見仏教遺跡学術調査研究プロジェクトについては、国連の支援を得ながら第4次学術調査隊を9月から10月にかけて派遣する予定であったが、現地政情不安により外務省並びに国連(UNESCO)から調査の延期要請があり、調査地域の変更及びアフガニスタンからの人材受入に関しても延期を余儀なくされた。2008年度は昨年度実施したトルクメニスタンに加えイランでの仏教西漸に関する仏教遺跡調査を実施した。遺跡調査を行った結果、イラン国内で仏教遺跡の痕跡を新たに発見しその調査成果については、マスコミ各社で取り上げられ大きな反響を得た。

### 3) COEに関する取り組み

#### ◆卓越した研究教育拠点形成に向けての検討

2008年度は昨年度の評価及び不採択理由を踏まえつつ、本学の建学理念や独自性及びこれまでの研究成果の蓄積を重視した、本学ならではの卓越した教育研究拠点を打ち立てるべく「仏教文化に関する世界的教育研究拠点の形成」(拠点リーダー 入澤崇教授)を申請したが残念ながら結果は不採択であった。COE推進委員会においてこれまでの申請に関する不採択理由及び今後の申請条件等を踏まえ、総合的に判断した結果、実績不足等の指摘された諸課題の改善を最優先とし、2009年度の申請については見合わせることにした。

### 4) 学外資金による研究の推進

#### ◆科学研究費補助金

科学研究費補助金に関する学内説明会の徹底と窓口相談の対応強化などの積極的な取り組みを推進した結果、2008年度は採択金額が2007年度比18%増となり、総額1億9千万円を超えた。

#### ◆受託研究・奨学寄付金

受託研究や奨学寄付金に関しては、RECや研究者との連携のもと2004年度以降、総額1億円以上を維持しており、研究に係る外部資金獲得額も順調に伸びつつある。

#### ◆文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業

2008年度から新たに始まった文部科学省戦略的研究基盤形成支援事業については「地域人材・公共政策開発システムオープン・リサーチ・センター」を申請した結果、採択され3ヶ年の研究を開始した。

### 5) 各研究所の取り組み

#### ◆研究所における研究活動

2008年度は、教学面における諸課題や学術研究の動向、研究を取り巻く環境変化を踏まえ2006年度に答申された「研究所の在り方」に基づき、「研究所の独自性」「研究課題の多様化」を考慮しつつ、各研究所において実施された共同研究や個人研究を通じて、本学の研究基盤としての機能を果たしうる研究への取り組みを実施した。

◆**研究所内の共同研究体制の充実**

新たな取り組みとして、仏教文化研究所や社会科学研究所では、研究所内の共同研究を附属センターとして呼称し研究体制の充実を図ることにより建学の精神に基づく学際的な学術研究の推進と積極的な外部資金の獲得を目指した。